2024（令和６）年度　福岡女子大学　一般選抜個別学力検査

〔 前期日程試験問題 〕

国際教養学科

国　語

【 90 分 】

注意事項

1　試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

2　問題は 4 ページから 21 ページにあります。問題は全部で**３題**です。

3　解答用紙には裏にも解答欄があります。

4　試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は，手を挙げて監督者に知らせてください。

5　試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。

6　試験終了後，**問題冊子は持ち帰ってください。**

問題一　次の文章は、外出を予定していた朝に、ひどい雨空なのを見上げて「いやはや、なんて好い天気なんだ」と口にした例を筆者が示して、言葉における「アイロニー」についての考え方を記したものである。読んで、後の問に答えなさい。

いったいアイロニーは、皮肉（sarcasm）、パロディ（parody）、茶化し（mock）、婉曲語法（euphemism）、あてこすり（insinuation）、逆説（paradox）などと、どこがどう違うのだろうか。それぞれの語にはこのように横文字をそえたけれど、この対応そのものにも問題は残っている（たとえば、「あてこすり」はhintでいいかもしれないし、glanceといった口語的な表現もある）。おまけに、東西の文化の違いが、いっそう事態を複雑にする。さらにそれは、懐疑主義、悲観主義、「非人情」［夏目漱石『草枕』］、はてはニヒリズムなどと、どこまで重なり合うのだろうか。

このような複雑多岐な姿で記号空間をゆきかうアイロニーを、手のなかからすべり逃れてしまう捉えがたさともども、捉えて見せること。このことこそ、アイロニー理論につきつけられた第一の①ヨウセイにほかならない。こうした場合とるべき方法は、デカルトやライプニッツがいったように、問題の曖昧な部分と判明な部分をふるいにかけて分離し、判明な部分として残ったものを単純な構成へ作り直すことだろう。そしてもしこの仕事が②成就を見たなら、今度は、除外された部分をこの構成とどのように組合わせることが可能かを試してみることだ。具体的にいうと、人びとの間でおよそアイロニーがたてるあらゆる響きに、いったん耳をふさぐことから考察を開始しなければならない。そうしても、しかしその音響はつねに潮騒のようなざざめきをやめないだろう。

そこで、耳を澄ましてもっぱらA<u>ある形をした波</u>だけを聴こう。問題は〈言葉のアイロニー〉（表現の③バイタイが言語であ

るようなアイロニー）、それもごく単純な談話の断片――たとえば、前にあげた、外出の気勢をそがれた者の「いやはや、なんて好い天気なんだ」ということば――である。この種の表現がアイロニーである点は、直観にてらして明らかであろう。こうして目標が決まるとともに、われわれの問題もはっきりする。いったいどのような要因が、この種の小規模な、記述やその他の扱いにむいたアイロニーを構成するのか。さしあたり取り組むべき課題は、この点を突きとめることである。

さまざまな文献（すべてとはいいかねるが）に当たった印象では、ここでいうアイロニーにかんして、従来二つの説がなされているようだ。ありていをいえば、「理論」と呼べるほどのまとまった説を差しだしている著者はあまりにも少ない。そのなかでも辛うじて検討に耐えるとおぼしき理論は、すなわち〈擬態説〉と〈反響説〉だけである。そこでまず、二つの説の紹介と解説をできるだけ簡潔にしておく必要があるだろう。結論を急ぐわけではないが、多くの点で反響説のほうがすぐれていると言わざるをえない。われわれとしては、反響説の可能性をせいぜい明らかにすると共に、それに欠けた部面、というより、その主唱者によってあからさまに気づかれていない理論的含意を補う仕事にエイイ[④]あたりたい。そのあとには、以上で得られた成果を記号論一般の次元から見直してみること、言葉のアイロニー以外の場面へ観察の成果を拡張してみることなど、多くの仕事が控えている。

擬態説

アイロニーを語るということは、この説によれば、ある発言を真面目くさって語る人物を演じること、そのような発言が実はアイロニーであることに気づかぬふり、ないし擬態をすることにほかならない。アイロニーの語源が事の真相を物語っ

ている。「アイロニー」のもとになったギリシア語の「エイローネイア」（eirōneia）は、わざと無知をよそおうこと、自分のほんとうの姿を⑤イツワることを意味していた。グライスは語源を踏まえていう、「アイロニカルであるということは、わけても（その語源が暗示しているように）ふりをすること（to pretend）である。人はこのふりをそのまま他人に認知させようとするのであって、それを公に口にするならば、効果がぶちこわしになるだろう」と。

擬態の構造をもっと詳しく見る必要がある。アイロニーの発言の場に登場するのは、単に一人の人格ではない。おもてむきの字義的発言に責を負うべき人物がいる。デュクロに従ってその人を「話者」（locuteur）と呼ぼう。しかしわれわれは、その人のことばが擬態であることを知っている。というのも、話者のことばは、思慮がたりないか、事実に反するか、なんらかの意味で⑥ケイベツや批判の的でしかないからだ。

ひとつ注意すべきなのは、この話者が虚構の世界にしか住まない人物であってもかまわないという点である。たとえば、話し手がふりをするのは、デンマーク王子ハムレットであるかもしれない。ともあれ、おもてむきの発言とは別に意図された真の発言が隠されているのであり、そうした発言に責任を負うもう一人の人格、すなわち「発言者」（énonciateur）がいるのである。

アイロニストが二重人格であるのに対応して、聞き手の側も二人の人格に分裂する。一方に、話者が語りかけている聞き手の存在が想定される。彼は字義的発言を無邪気に信じているかぎりで、事情に通じない無知な聴衆の一員である。ただし、現実にそうした聴衆がいるか、それとも想像裡にしかいないかは、この際問題ではない。これはちょうど、劇中の俳優がただ一人カーテンを背に演説を［（a）］場面で、聴衆が舞台に登場していなくてもいいのとおなじである。また他方、発言

者のことばを聞きとどける役目にあたる聞き手が存在する。彼は話者の思慮のなさも、聴衆の無知も、発言者の彼らに対する態度も、すべてを見通している。ただしこの場合、前とはちがって、彼の存在は現実のものであることを要する。でないと、せっかく⑦企てられたアイロニーが流産してしまうだろう。

一例に即して擬態説を確かめておく。「やれやれ、なんて好い天気なんだ」の話者とは誰か。それはたとえば、自信あり気に、すくなくとも平然と「当日は好い天気でしょう」と述べ、いまもってその発言を撤回していない天気予報担当者である（もっともおなじみなのは、テレビの画面で天気図を背景に公言する「お天気キャスター」であろう）。アイロニストはそうした人物の擬態を演じているのだ。さて、話者のことばにうなずく途方もなく無知な聴衆がいる。そして、アイロニストの仮面に隠れた［（あ）］は、こうした愚かな主張を公にする［（い）］やそれに聞き従う聴衆を嗤（わら）うのである。発言者はこの企てを実地に移すさい、自分の意図をキャッチしてくれる、事情に通じた聞き手をおおいに当てにしている。なぜかはいうまでもあるまい。聞き手がただしく意図を受けとめてくれなければ、アイロニーは実らないからだ。思慮のある聞き手は是が非でも現実に存在しなくてはならないのである。

反響説

前に示した説に比べ、反響説ははるかに単純な構成しかそなえていない。この説のポイントは、アイロニーは人のことばのおうむ返しを構成要因とするという点にある。ところで、「おうむ返し」とは何だろうか。反響説を理解するためにはこの点を明らかにする必要がある。

形態素や語や文といった言語単位が現実に生じる仕方を、論理学のやり方にならって、〈使用〉と〈言及〉に区別することができる。たとえば「太郎は小学生だ」という発言と「太郎は二文字の名だ」という発言とを比較すると、同じ実質――同じデザインや同じ音声――をそなえた「太郎」という二つの語が出現している。だが、はじめの文では問題の語はある人物を指示する代名詞として「使用されて」いるのであり、後の文ではもうその語は語の外部の対象をさす働きを失い、「二郎」でも「正夫」でもない特定の人名（厳密にいえば、音声や図形）の資格で現れているにすぎない。いいかえれば、あとの場合、その語は、指示機能をともなう代名詞の名――言語単位について「言及する」もうひとつの言語単位――にガイトウ[8]するのである。

こうした区別を絶対的に設定できるわけではないという意味で、この整理には重大な問題が潜んでいる。それにもかかわらず、ある言語単位を使用することからその単位について言及することを区別できること、これはあきらかであろう。いま問題は言及である。スペルベルらの反響説によると、アイロニーとは他人の発言に言及することによって、そうした発言に対し話し手が抱く態度を表示する記号装置である。もう少し詳しくこの説のなかみを見てみよう。

アイロニーを構成するのは、ある発言をおうむ返しに反復するというタイプの言及、すなわちこの説の命名の由来ともなった「反響言及」（echoic mention）である。正確をキ[9]していうと、反響は必ずしも発言どおりでなくともかまわない。お天気キャスターが実際は「明日は晴れるでしょう」と語ったとする。アイロニストの「なんて好い天気だろう」という発言がアイロニーの効果をあげることが十分考えられる。したがって、事実上の発言と同義な、すなわちもとの発言の言い換えに相当する発言が繰り返されるだけでもかまわないことがわかる。それゆえ正確にいうと、発言の反響というより、発言の

「意味」もしくはそれが担う「命題」の反響が問題なのである。

反響にかんするスペルベルらの観察に、「反響の量と質」という観点から整理をほどこすことができる。まず、反響は量的にさまざまである。発言全部をおうむ返し式に繰り返す場合から、その大部分を、あるいはかなりな部分やほんの一部を、さらに極端な場合は、単に一語だけを繰り返すにすぎない場合まで、いろいろであろう。たとえば、

ふるさとの訛りなくせし友といてモカ珈琲はかくまでにがし　（寺山修司）

には、あきらかに啄木の歌が反響している。明治の歌人が望郷の思いをすなおに詠んでいるのに対して、この昭和の歌人（あるいは、詠み手としての「発言者」）はプラットホームで聞き耳を［（b）］歌人の仕草に感傷を見出し、彼をアイロニカルに突き放している。ところが眼のまえに東京の風に染まった、あるいは染まったふりをする友を見たとき、詩人の思いは屈折する。禁断の故郷を「なつかし」とする思いに、彼は苦いものを飲みくだすのだ（ちなみに、この事例において、「擬態説」の理論的要因である「発言者」を想定する余地があるのは、短歌を詠む行為が、それ自体虚構的営みかもしれないからである。換言すれば、この歌はフィクションである可能性が多分にある）。こうした一通りではない歌のたたずまいが、ことばの片端を反復するだけで構築できる点に注目すべきである。和歌の伝統的技法としての本歌取りは、アイロニー論の観点から見直す側面があるかもしれない（ただ本歌取りの作例について筆者が試みた不十分な観察によれば、ほとんどの例はアイロニーとは異なるポリフォニーの響きを狙いとしている。その点で寺山の歌は注目すべきだろう。アイロニーの跡が顕著な本歌取りの類型は、たとえば江戸時代盛行を見た狂歌に見出される。ただし作例の多くは、もっぱら滑稽を狙い

とした「もじり」が⑩キチョウをなす）。

反響の量におけるこうした多様性は、反響がことばのそれというよりむしろ命題の反響であることに起因する。ことばそのままを繰り返すかわりに、その含意を反響させることで、アイロニーを作るには十分なのだ。それゆえ、不要な部分は削り足らない部分は補うなどして、B元のことばを加工することができる。これは、含意という観点から据え直すと、スペルベルらのいうように、反響には間接的と直接的の違いがあるということにほかならない。たとえば、

――彼「ぼくが悪いんじゃない」

――彼女「では、私が悪いのね。そう言うつもりでしょう」

という対話で、彼女の言い方がどこかアイロニーの色に染まっているのは、ここにやはり反響が生じているからである。しかし、それはあからさまな反復ではなく、彼の発言が含意すると彼女が考えたものを、間接的に繰り返しているにすぎない。ここでは接続詞「では」――すでに述べられた事柄を理由としてその帰結をみちびく――に注目すべきである。同時にこの例で一人称代名詞（訳では「ぼく」と「私」となっているが、原文では同じI）や「悪い」という語が直接に反復されていることにも注目しなくてはならない。含意の遠近は反響の量とからみあっているのである。

一方、反響の質とは、反響の現実性の有無とその形態の問題である。右の例では、彼女は現実に彼の発言を一部繰り返している。この意味で反響は現実的である。しかし場合により、Cこの条件は取り下げてかまわない。その人物が「いかにも言いそうなこと」、しかし現実には言ったことのないことを反響させてもいいし、もとの発言が個人のものである必要もない。世間で通用している常套句、諺や成句の類でかまわないのである。命題の反響ということで大切なのは、聞き手がそこに反

響を認知できるか否かなのだ。いいかえれば、聞き手がそうした命題――反響命題――を同定できるかどうかが、アイロニーの構成要件なのである。これにひきかえ、命題の現実性やその形態は二次的な問題にすぎない。

（菅野盾樹『新修辞学――〈反哲学的〉考察』より）

注

グライス……イギリス出身の哲学者、言語学者（一九一三―一九八八）。

デュクロ……フランスの作家（一七〇四―一七七二）。

スペルベル……フランスの人類学者、言語学者、認知科学者（一九四二―）。

寺山修司……劇作家、歌人（一九三五―一九八三）。9ページの歌は、『寺山修司全歌集』（講談社学術文庫、二〇一一）より引用。

ポリフォニー……複数の声部がそれぞれの旋律を主張しながら絡み合っていく様式の音楽。多声音楽。文学者ミハイル・バフチン（一八九五―一九七五）が文学理論としても用いた語。

問一 傍線部①～⑩のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに改めなさい。

問二 傍線部A「ある形をした波」とは、本文の中の何を比喩した表現か。本文の傍線部Aより前の部分から、最もふさわしい語句を抜き出して答えなさい。

問三 文中の［（a）］、［（b）］に最もあてはまる語句を、次のうちから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　すます　イ　くじく　ウ　たてる　エ　はさむ　オ　ぶつ　カ　ひく　キ　なげる　ク　ふさぐ

問四 文中の［（あ）］、［（い）］に最もあてはまる語句を、次のうちから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　聞き手　イ　聴衆　ウ　話者　エ　発言者

問五 文中で筆者は「擬態説」について、アイロニーが成立するために「聞き手」がどのような役割をはたしているといっているか、説明しなさい。

問六 本文9ページで筆者は寺山修司の歌を、石川啄木の歌「ふるさとの訛りなつかし停車場の人ごみの中にそを聴きにゆく」を使ったアイロニーであるとするが、その場合、反響している「命題」とはどのようなことか、説明しなさい。

問七 傍線部B「元のことばを加工する」とあるが、次のア～オのうち、筆者のいう「加工」にあたるものには○、「加工」にあたらないものには×を、それぞれの解答欄に答えなさい。

ア　人物を指示する代名詞として語を使用する　イ　話し手が抱く態度を表示する

ウ　発言のうち単に一語だけを繰り返す　エ　ことばの片端を反復する　オ　発言を間接的に繰り返す

問八 傍線部C「この条件は取り下げてかまわない」と筆者はするが、それはなぜか、答えなさい。

問九 本文10ページの「対話」の場合、彼女が考えた「彼の発言が含意する」内容は何か、答えなさい。

問十　石川啄木の歌集を、次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　赤光　　イ　春と修羅　　ウ　道程　　エ　一握の砂　　オ　青猫　　カ　みだれ髪

問十一　アイロニーを使うとどのような効果があり、また、そこにどのような問題がひそんでいるか、あなたの考えを三百字以内で書きなさい。

下書き用紙

一行二十五字

300　200　100

問題二　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（ただし、設問の都合上、送り仮名、返り点などを省いたところがある。）

秦襄王病。百姓為之禱。病愈、殺牛塞禱。郎中閻遏公孫衍出見之曰、非社臘之時也。奚自殺牛而祠社。怪而問之。百姓曰、(い)人主病、為之禱。今病愈、殺牛塞禱。閻遏公孫衍説、見王拜賀曰、過堯舜矣。王驚曰、何謂也。対曰、堯舜其民未至為之禱也。故臣窃以王為過堯舜也。D因使人問之、何里為之。(1)其里正与伍老屯二甲。閻遏公孫衍謂王曰、今王病而民以牛禱。病愈、殺牛塞禱。今乃(3)其里正与伍老屯二甲。臣窃怪之。王曰、(ろ)子何故不知於此。彼民之

所以為我用者、非以吾愛之為我用者也、以吾勢之為我用也。

者也。吾釈勢与民相収、若是、吾適不愛、而民因不為我用也。

故遂絶愛道也。

（『韓非子』による）

注　塞禱……供え物を捧げて神へのお礼の祭りをすること。
郎中……王に近侍する臣。　閻遏、公孫衍……人名。
社臘……春秋の土地神の祭りと、冬の百神の祭り。　堯舜……堯と舜。古代の聖王の名。
里正……里（集落）の長。　伍老……里の住民を代表する五人組のうちの頭。
屯二甲……屯は集落の屯（むら）。二甲は鎧二領のこと。　勢……権勢、または権勢をふるうこと。

問一　二重傍線部（1）「乃」（2）「若」の読みを、ひらがなで答えなさい。

問二　傍線部A「怪而問之」とは、誰が、何を怪しんだのか、説明しなさい。

問三　波線部（い）「人主」（ろ）「子」は、誰のことをさすか。次の選択肢のうちから、最もあてはまるものを一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　襄王　　イ　百姓　　ウ　閻遏と公孫衍　　エ　堯と舜　　オ　里正と伍老

問四 ① 傍線部B「説」は、どのように読むのが最もふさわしいか。次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア いかりて　イ かなしみて　ウ よろこびて　エ くるしみて　オ あわれみて

② なぜ①のような気持ちになるのか、説明しなさい。

問五 傍線部C「其民未至為之禱也」を「そのたみいまだこれがためにいのるにいたらざるなり」と読むには、どのように返り点を付ければよいか。解答欄の白文に返り点を付けなさい。

問六 文中の「［　D　］因使人問之」の空欄Dにあてはまるものとして、最もふさわしい人物を次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 襄王　イ 百姓　ウ 閻遏　エ 公孫衍　オ 舜

問七 傍線部E「何里為之」の読み方として、最もふさわしいものを、次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア なんりにしてためにゆくと　イ なんぞりをこれのためとすと

ウ いずれこれをりとするやと　エ いずくんぞこれをりとせんやと

オ いずれのりにてこれをなせると

問八 傍線部F「訾」の本文中の意味として最もふさわしいものを、次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 謝る　イ 分ける　ウ 表彰する　エ 罰する　オ 預ける

問九 傍線部G「臣窃怪之」を、指示語の内容がわかるように、現代語訳しなさい。

問十 傍線部Hについて、襄王は「絶愛道」としているが、「王」と「民」がどうあるべきだと考えているのか、説明しなさい。

問題三　次の文章は『栄花物語』の一節であり、万寿二年（一〇二五）、三条院（上皇）の后だった娍子（せいし）が崩御し、その法要が行われた頃の話である。読んで、後の問に答えなさい。

かくて御法事、またの月の十余日にせさせたまふ。中宮は、七僧の法服うるはしくせさせたまへり。三条宮にてせさせたまふ。そのほどの御有様思ひやるべし。御願文（ぐわんもん）、大内記菅原忠貞（すがはらのたださだ）ぞ仕うまつりたりける。このおはします御有様を仕うまつりたるが、いみじくあはれなるなりけり。ただ片端をまねびたり。「黄金の車並べ寄せて、玉の扉（とぼそ）を閉ぢてよりこの方、供奉するA や何ぞの人、独り嶺（みね）の月の暁の影、警巡するや誰の人ぞ、ただ林の鳥の夕の声」など、いみじくあはれなり。かくて御誦経などさまざまにて果てぬ。この御願文を、ある人聞きて詠みける。誰と知らず、

月の影林の鳥の声ならで行きかふ人のなきぞ悲しきB

宮々の御服やつれもあはれにぞ。

かかるほどに、山井（やまのゐ）には、女御殿の御悩み、月日に添へていみじければにや、影のやうにならせたまひにたりC。院、よろづに思し嘆かせたまふ。

このごろ聞けば、逢坂（あふさか）のあなたに、関寺（せきでら）といふ所に、牛仏（うしぼとけ）現れたまひて、よろづの人詣（まゐ）り見たてまつる。年ごろこの寺に、大きなる御堂建てて、弥勒（みろく）を造り据（す）ゑたてまつりける。榑（くれ）、えもいはぬ大木どもを、ただこの牛一つして運びあぐることをしけり。あはれなる牛とのみ、御寺の聖（ひじり）思ひわたりけるほどに、寺のあたりに住む人借りて、明日使はむとて置きたりける夜の夢に、「われは迦葉仏（かせうぶつ）なり。この寺の仏を造り、堂を建てさせむとて、年ごろするにこそあれ。ただ人はいかでか使ふべD

き」と見たりければ、起きて、かうかう夢を見つると言ひて、拝み騒ぐなりけり。牛もさやにて黒くて、ささやかにをかしげにぞありける。繋がねど行き去ることもなく、①例の牛の心ざまにも似ざりけり。入道殿をはじめたてまつりて、世の中におはしける人、詣らぬなく詣りこみ、よろづの物をぞ奉りける。ただ帝、東宮、宮々ぞえおはしまさざりける。この牛仏、何となく心地悩ましげにおはしければ、②とくうせたまふべきとて、かく人詣りこみて、この聖は御影像をかかむとて急ぎけり。

かかるほどに、西の京にいと尊く③おこなふ聖の夢に見えけり。「迦葉仏当入涅槃のだむなり。智者当得結縁せよ」とぞ見えたりければ、いとど人々詣りこむほどに、歌よむ人もあり。和泉、

聞きしより牛に心をかけながらまだこそ越えね逢坂の関

人々あまた聞こゆれど、同じことなれば書かず。

日ごろ、この御かた書かせて、六月二日ぞ御眼入れむとしけるほどに、その日になりて、この御堂をこの牛見巡りありきて、もとの所に帰り来て、やがて死にけり。これあはれにめでたきことなりかし。御かたに眼入れけるをりぞ、果てたまひにける。聖いみじく泣きて、やがてそこに埋みて、念仏して、七日七日に経仏供養しけり。後にこの書きし御かたを、内にも宮にも拝ませたまひける。かかることこそありけれ、まことの迦葉仏、この同じ日ぞかくれたまひける。今はこの寺の弥勒供養せられたまふ。この聖もいそぎけり。草を誰も誰もとりて、詣りけるなかに、詣らぬ人などぞありければ、それは罪深きにやなどぞ定めける。

さて、かの院の女御の御悩みいみじかりければ、法性寺やいづこやとありかせたまひつつ、御修法おこなはせたまふ。よ

ろづに院も入道殿もせさせたまふに、④つゆその験なかりければ、思し嘆かせたまふ。

このごろ入道殿も、御風など起らせたまひて、さまざま悩ましう思さるれば、すがすがしくもえ渡りあひ見たてまつりたまはずなどあるに、Ⅰ督の殿のただにもおはしまさで、七八月にあたらせたまひて、月ごろ土御門殿におはしませば、その御祈りもし⑤づごころなく思されて、すこしも隔たりあるさまに思さるる方のことをば、おのづから今、今と思しめしつつ、日も過ぎもてゆくに、大宮もこの同じ殿におはしませば、東宮さまざまおぼつかなさを明け暮れ聞こえさせたまへば、殿の、こを、げにさぞ思しめすらむ、いと心苦しき御ことなりとて、いかでこのごろのほどに行啓あらせむと思して、いそがせたまふ。六月二十五日吉日なりければ、その日と思しいそがせたまふ。

（『栄花物語』による）

注

御法事……五月に行われた娍子の四十九日。　中宮……威子。後一条天皇の后で、藤原道長の娘。

三条宮……かつて三条院がお住まいだった場所。　願文……追善法要の祈禱文。

山井……邸宅の名。　女御……寛子。小一条院の后で、道長の娘。

院……小一条院（敦明親王）をさす。三条院を父、娍子を母とする。

逢坂……逢坂山。近江と山城の境に位置する山。東麓の近江側に関寺があった。　弥勒……弥勒菩薩。

樽……丸太のこと。　迦葉仏……過去七仏のうち、釈迦出現の直前にこの世に現れた、第六の仏。

さや……清らかでさっぱりしていること。　入道殿……藤原道長。　帝……後一条天皇。

当入涅槃のだむなり……涅槃に入る時がまさに迫っている、の意。　和泉……和泉式部。

法性寺……寺の名。　督の殿……嬉子。東宮（敦良親王）の妃で、道長の娘。

土御門殿……藤原道長の邸宅。　大宮……彰子。後一条天皇の母で、道長の娘。

問一 波線部①～⑤の語句の意味を、本文に即して書きなさい。

①例の　②とくうせたまふべき　③おこなふ　④つゆその験なかりければ　⑤しづごころなく

問二 傍線部A「供奉する」とは、どうすることか、現代語で答えなさい。

問三 傍線部B「悲しき」とは、どのような情景を悲しいといっているのか、答えなさい。

問四 傍線部C「影のやうにならせたまひにたり」とは、誰がどのようになったのか、答えなさい。

問五 傍線部D「ただ人はいかでか使ふべき」を現代語訳しなさい。

問六 傍線部E「御影像をかかむ」とは、何の「御影像」を書くのか、最もふさわしいものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　女御　イ　弥勒　ウ　牛　エ　入道殿　オ　西の京の聖

問七 傍線部F「心をかけながら」とは、どのようなことが気になるのか、答えなさい。

問八 傍線部G「これあはれにめでたきことなりかし」とは、何がすばらしいことなのか、答えなさい。

問九 傍線部H「それは罪深きにや」とあるが、人々は何を「罪深いこと」と思ったのか、答えなさい。

問十 傍線部I「督の殿のただにもおはしまさで、七八月にあたらせたまひて、月ごろ土御門殿におはしませば」とは、七八月に何を予定しているのか。次のうちから最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　出産　イ　出家　ウ　結婚　エ　帰省　オ　葬儀

問十一 この万寿二年の出来事以前に成立した作品を、次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　今昔物語集　イ　蜻蛉日記　ウ　大鏡　エ　無名草子　オ　千載和歌集